

令和6年度 学校経営報告

東京都立淵江高等学校長

観点	教育活動の目標と方策	成果と課題
学習指導	【目標】 ○ 基礎学力の定着と主体的、意欲的な学習態度の育成	
	【方策】	
	① 教員のデジタルスキルの向上とスマートスクール端末の活用	相互授業参加期間にデジタルスキルのある教員の授業参観する工夫し意識を高めた。Web テストや課題の配信など若手教員中心に端末の活用は向上している。
	② 「総合的な探究の時間」の指導体制の強化による探究活動の充実	探究委員会を中心に全教員で探究の授業に取り組むことができた。次年度は探究の内容を深めたい。
	③ 観点別評価の確実な実施	各教科内で検討し、実施している。次年度はリアテンドットの導入を推進したい。
	④ 土曜日や放課後を活用した補習や講習による学習支援及び学習機会の確保	土曜講習は4回実施。放課後補習も実施したが、生徒の参加状況は低い。生徒の意欲の向上が必要。
⑤ 長期休業中における講習計画の充実	受験対策の講習と基礎学力定着の講習が実施できた。開講する教科に偏りがあるので、次年度は偏りを改善が必要。	
健康づくり 生活指導	【目標】 ○ 規範意識の向上と基本的な生活習慣の確立 生徒の心身の健康を保持増進	
	【方策】	
	① 全教職員の共通理解による遅刻・頭髪・服装指導の実施	今年度は、職員会議前に研修会を開催。身だしなみ指導について共通理解を図ることを目指したが、全身体制での身だしなみ指導はできなかった。遅刻については、昨年度同様1万回を超えている。学年で遅刻指導を実施しているが、改善に結びついていない。家庭との連携し、粘り強く指導し改善を図る。
	② 携帯・スマホの使用マナーの徹底及びセーフティ教室によるネットアクセス等の危険防止教育の推進	セーフティ教室はじめ、あらゆる機会に啓発を行ったが、継続して教育が必要である。
	③ 交通安全教育、交通法規遵守の徹底、HR 等を活用した安全教育の浸透	竹ノ塚警察や JAF を招いての交通安全指導を行ったが、自転車のマナーやヘルメット着用について不十分である。近隣からもマナーの悪さを指摘されている。引き続き指導を継続していく。
④ 学校行事、部活動等を活用した基礎体力の向上	体育祭は学年別種目を実施できた。	

	⑤ 特別支援に関する情報共有を行い、必要に応じた通級指導等の実施	教育相談委員会を開き、SC や専門医からの指導や助言をうけることができた。生徒への指導に生かすことができた。
	⑥ SC や YSW と連携した相談活動の充実と組織的な対応	SC や YSW との日々の情報共有から、行政との連携や社会資源の活用ができた。次年度も相談体制の構築を図り、教育相談や自立支援を充実させる。
	⑦ すべての教育活動を通じた自他を尊重する態度の育成	あらゆる機会をとらえて教職員及び生徒の自他を尊重する意識の育成を図った。
	⑧ 生命の大切さを伝える指導、カウンセリングの充実によるいじめ、自殺の未然防止指導の実践	SC 全員面接を4月中に実施し、フォローアップ面接も行い、情報共有した。気悪調整会議や職員会議でも生命にかかわる事故に関して注意喚起してきた。
	⑨ アプリやデジタル機器等を活用した日々の生徒の健康管理と健康に関する情報発信	コンディションレポートを活用し、生徒の変化を見逃さず、対応できた。今後も継続していく。
進路指導	【目標】 ○生徒自らが将来の進路を真剣に考える姿勢の醸成及び進路の第1志望の実現	
	【方策】	
	① 進路指導部と学年の連携による進路ガイダンスの充実	進路指導部を中心に進路行事を充実させ、学年とともに系統的な進路指導ができた。特に就職ガイダンスは13回実施した。
	② 生徒の具体的目標に合致した各種講習や模擬試験の実施	長期休業中の受験対策の講習を実施、模試も受験対策用の模試を導入した。英検の校内受験を開催し英検2級3名、準2級が1名
	③ 外部機関や卒業生などを活用した講演会等を実施するなどのキャリア教育の工夫	外部機関を活用した進路ガイダンスや卒業生講話などを行い、生徒の進路に対する意識を向上できた。
④ 進路実現に向けた三者面談などの実施	早い段階からの進路を意識させるために、2年生は9月までに三者面談を実施することができた。生と保護者の進路に関する意識を担当が把握できた。ジエンドも早い時期からの三者面談を実施し、生徒の進路に対する意識を醸成する。	
特別活動	【目標】 学校行事、部活動などによる生徒の主体性や自信の獲得 多様性を理解するために地域交流や国際交流やボランティア活動の継続と充実	
	【方策】	
	① 各行事における実行委員の計画的な育成	体育祭では体育祭実行委員・文化祭では文化祭実行委員・合唱祭では合唱祭実行委員が中心となり、各行事を実施できた。各委員の達成感は大きかった。
② 新型コロナウイルス感染症5類移行後の各行事の充実	体育祭では、学年別の種目や部活動対抗リレーを取り入れた。文化祭では、飲食団体を	

		増やすことができた。コーヒーカップなどクオリティーの高いクラス展示があり、生徒の満足感を得られた。
③ ボランティア活動の積極的な活動の推進と生徒会活動の活性化		ぶんこ食堂や区民センター、特別支援学校等種々のボランティア活動を行った。生徒会では、区のアウトリーチ型の若間者会議に参加した。今後もボランティア本校の特色ある教育活動として継続していく。
④ 学校 2020 レガシーとしての国際交流、ボランティア活動、地域交流を通じた異文化理解ボランティアマインドの育成及び共生社会に対する意識の醸成		国際交流では、ギリシャ大使館の講演、文教大学の留学生との交流、韓国の中高生の学校訪問などで交流できた。特別支援学校等との交流活動2回、文化祭への参加など共生社会について学ぶことができた。
【目標】 ○教職員全員体制による募集・広報活動による応募倍率の向上応募倍率の向上と HP の充実		
【方策】		
① 学校説明会、学校見学会、中学校、塾訪問の工夫と充実		1年生の母校訪問を復活させたが、教員による学校訪問は減少した。外部の学校説明会には前年度並みに実施できたが、入選倍率を向上するためにも次年度は、学校訪問や塾訪問など回数を増加させたい。
② HP や掲示板の更新による日々の最新情報の発信		HP の更新は大幅に減少し、情報発信ができなかった。教職員全員が発信できるようニュースの集め方や周知について工夫し改善する
③ 都立高校 PR 事業の活用		都立高校 PR 事業は活用できなかった。東部学校経営支援センターの X に本校の特色ある教育活動を7回投稿した。
【目標】 ○企画調整会議と分掌部会・経営企画室との双方向性の維持と情報共有の徹底 ○ 教職員の働き方改革の実現		
【方策】		
① 企画調整会議、各種会議による各組織間の連携強化と情報の共有化		情報共有がうまくできていないことが散見された。コミュニケーション不足を改善していく。
② 着実な予算申請、ヒアリング等による適正な自律予算、補正予算の編成と計画的な執行		予算は、計画的に執行できた。次年度も教育活動に必要な予算を適正に執行していく。
③ 体罰禁止、個人情報の徹底管理等、コンプライアンスの周知徹底		あらゆる機会をとおしてサービス事故に関する注意喚起や研修を実施し、サービス事故ゼロ・体罰ゼロであった。次年度継続していく。
④ 効率的な業務の遂行と業務のスリム化による教職員のライフ・ワーク・バランスの実現		業務の効率が図られず、ライフ・ワーク・バランスの実現は程遠い状況である。会議のペーパーレス化は推進でき

		た。
--	--	----

重点目標の取り組み

重点目標	成果と課題
学習指導	
① 授業規律の確立	授業によって授業規律ができていないことがあった。授業準備ができていない生徒もおり、継続して全授業で授業規律を確立していく。
② 土曜日や放課後の補習・講習の施による、基礎学力の定着と学習意欲の醸成 生徒指導・体力づくり	土曜講習は4回実施。放課後補習も実施できた。参加者が少ないのが課題だが、公募推薦で公立大学合格者1名。
① 学年と生徒保健部との連携による遅刻の減少 《1日 30名以内》	遅刻指導は、全教員で指導を行ってきたが、学年差が大きく 平均1日30名以内 の目標達成はできなかった。家庭との連携を強化して改善を図る。
② 身だしなみ違反者、携帯等のルール違反者を出さない指導の徹底	定期的な指導に加え、日常的に指導を継続しているが、全教員の共通認識の不足から連携不足を感じた。今後も継続した指導を行う。
③ 学年と自立支援担当、YSW、SC 等が連携し、中退防止	学期に3回主任 YSW と自立支援担当学校経営支援主事を招聘して振り返りを行い、生徒の家庭環境の調整や福祉につなげ、中途退学の防止ができた。YSW や SC につなげるのが難しいケースもあり、全体として中途退学防止はできなかった。
④ 問題行動の未然防止及び再発防止	昨年度より特別指導の件数は微減した。SC 面談を活用するなど、教員の生徒理解や再発防止を図った。特別指導を10件以下にできるように生徒理解及び見守りを強化する。
⑤ 体力づくり	教科や部活動だけでなく、日常生活でも歩くことや階段を使うなど工夫で体力の向上を図る。今年度は、学年内での球技大会を実施できた。
進路指導	
① 生徒の進路希望の実現	進路指導満足度は、83%と前年と比べると11ポイント低下。進路決定率は94.6%と前年度より、4.6ポイント増加した。求人票をPDFで読み込み、保護者と生徒が求人票を一緒にみられるシステムにしたことで、第1回就職決定率が90%と高い成果が出させた。次年度も維持できるようにしたい。
特別活動	
① 行事の活性化とボランティア活動の推進	行事では、各実行委員が中心となり、実行委員が達成感を持てる行事ができた。様々な団体と連携したボランティア活動ができ、特別支援学校との交流が2回、文化祭での演劇発表

	ができた。部活加入率は、さらに向上させたい。
募集広報活動	
① 応募倍率の向上とHPの充実	HPの更新は、177回と前年度のほぼ半数と大幅に減少した。入学選抜の倍率が、推薦は1.75倍であったが、前期入試では1倍を割る苦しい結果になった。次年度は、HPの更新をこまめに行い、入選の倍率を回復したい。
学校経営組織体制	
① 分掌間、教員と経営企画室、学年と分掌等の意思疎通と情報共有	職員会議前の研修を実施し、生徒理解や情報の共有化を図った。企画調整会議での共通理解がなかなか図られなかった。
② 効率的な業務の推進	昨年1月勤務時間外を自動電話対応にしたところ、時間外の電話が大幅に減った。保護者も欠席連絡ツールを活用していることの要因である。会議のペーパーレス化促進することができた。

数値目標と自己評価

項目	目標	結果	
授業満足度	90%以上	70.6%	C
遅刻者	1日30名以内	55.6名	D
特別指導件数	10件	14件	C
教育相談委員会開催回数	10回以上	7回	C
進路指導満足度	90%以上	83%	C
進路決定率	95%以上	94.6%	B
進級率	99%		C
部活動加入率	75%	60%	C
ボランティア個人参加者のべ人数	150名	175名	A
学校HP、SNS等の更新回数	500回	177回	D
出前授業	1回以上	1回	B
入選 推薦倍率	3倍	1.75倍	C
入選 分割前期倍率	1.3倍	0.82倍	D

(自己評価の標語 A：十分達成 B：達成 C：やや不十分 D：不十分)